

I-C-14 雲南白薬の薬理学的研究（第1報）

近畿大学医学部附属病院薬剤部，医学部共同研究施設実験動物共同研究室*

○野村 守弘，古河 恵一*

目的・「雲南白薬」は三七（田三七人参）を主薬とした製剤で，中国の民間に伝わる秘薬とされている。この製剤の使用されている地域は中国だけにとどまらず，東南アジア全域にまで広がっており，主に打撲・挫創・創傷等の内出血・外出血に対する止血，消腫，鎮痛にすぐれた効果を発揮すると云われている。

今回この製剤を入手する機会を得たので，主薬である三七と比較することにより，雲南白薬の止血効果についてマウスを使用し実験的に検討を行なった。

方法・5～6週齢の dd Y 系雄性マウス（体重 26 ± 2 g）を使用した。マウスの腹腔内に被検試料 0.2 ml を接種，10分後にマウスの尾端から 1 cm の所を切断し，30秒毎に濾紙で血液を吸い取り，血液が付着しなくなるまでの時間を測定した。

被検試料には三七，雲南白薬ともにメタノールと n ブタノールにて処理をした水溶性分画，さらにイオン交換クロマト CM-Sephadex C-25 で処理をした分画を使用し，コントロールには生理食塩液を使用した。他の止血剤と比較するためにカルバゾクロムスルホン酸ナトリウム（アドナ），トラネキサム酸（トランサミン），ビタミン K₂（ケイツー注）を用いた。

結果・コントロール（生理食塩液）は腹腔内注射後，約 12（ ± 2 ）分で止血するが，三七，雲南白薬の水溶性分画は，両方ともコントロールに比べ有意に止血時間が短縮した。三七と雲南白薬においては 5 mg / 0.2 ml の腹腔内接種で，雲南白薬の方が有意に短縮されており，他の薬剤との比較においてはトラネキサム酸が最も類似した止血パターンを示した。CM-Sephadex C-25 で処理した水溶性分画については，三七，雲南白薬とも 2.5 mg / 0.2 ml 腹腔内接種を行ない，雲南白薬の方がさらに有意な止血時間の短縮をみた。

考察および結論・止血剤として見るかぎり，雲南白薬の方が三七よりも効果が優れていると考えられる。既に，小菅らによって三七に止血成分 Dencichinine が確認されているが，止血時間から推察すると Dencichinine 以外の何らかの成分による止血作用もしくは相乗効果による止血作用が考えられる。